

千歳民報

12月13日

火曜日

「今できることをやって」

元受刑者受け入れの北洋建設

難病で余命宣告 小澤社長が講話

恵み野旭小で講演

創業44年でこれまで500人以上の元受刑者を雇い入れている、札幌市の建設業・北洋建設の小澤輝真社長(42)

が12日、恵庭恵み野旭小学校(福田幸一校長)で講演した。

難病の脊髄小脳変性症にかかりながら講演活動を続ける小澤さんは、児童たちに「今できることを精いっぱいやって」と呼び掛けた。

同小が6年生58人のキャリア教育の一環で小澤さんを講師に招いた。

同社は小澤さんの父の代から元受刑者を積極的に雇用。「犯罪者という悪いイメージがあると思うが、それぞれ事情があつて全然怖くない」と強調。会社の給料が出ないため経費を使い込んだ人や、暴力団を抜けるため現金自動預け払い機(ATM)を壊した人などを紹介し「見る目を

育てないといけない。全く悪くない人がいっぱいいる」と強調した。

小澤さんは小脳が委縮する難病で、父親も同じ病気で50歳の時に亡くなっている。「(映画)『エリツトルの涙』の主人公と同じ病气。運動機能を失っていくが、大脳は全く正常なので、肺が動かなくなると『死ぬ』ということが分かる病气。余命はあと4年。『あと何年で死ぬ』

と言われるのは正直きつい」などと明かし、児童たちも真剣な表情で聞き入った。

小澤さんは車いす生活で、話すのも困難になりつつあるが、発病してからも大学院に通い、



「幸せをかみしめて」と訴える小澤さん

「幸せをかみしめて」と訴える小澤さん

講演会活動を展開していることを説明。「家にこもるのでなく、表に出てこういう話をしたい。子供に『いっぱいやったお父さんだった』と言われたい」と話し「20歳の息子が『会社を継ぐ』と言って

くれているのがうれしい」と笑顔を見せた。児童たちに「自分が弱ければ、人も助けられない。自分を大事に、縁を大事に、今の幸せをかみしめ、今できることを精いっぱいやった方がいい」と訴えた。